

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400470		
法人名	社会医療法人 仁厚会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム北条 みやこ村		
所在地	鳥取県東伯郡北栄町土下123-1		
自己評価作成日	平成27年9月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3171400470-00&PrefCd=31&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市宗像53番地46
訪問調査日	平成27年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①老健隣接の良さを活かした施設運営(ハード・ソフト) 教育研修や医療の連携の充実
②委員会活動の活性化 11委員会のよるサービスの質の向上
③事業計画に基づいた個人目標の管理と自己評価の実施
④家族会 広報誌の発行(年6回)による情報発信
⑤地域との連携により防災活動の実施・協力
⑥地元住民の一員として地域活動に参加・交流
⑦ボランティア、実習生の受入れ
⑧ISO9001認証取得後の取り組みと運用

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人の運営する老人保健施設と併設してグループホームがあります。母体法人が社会医療法人なので医療や教育研修の連携が来ています。各ユニットごとに「住民集会」があり、一人ひとりの利用者が思いや要望を話せ職員はその意向を聞き、よりその人らしい暮らしができるよう支援されています。地域の公民館や保育園との交流やボランティア受け入れ、家族会など様々な交流の機会を持ち、地域・社会との関係が途切れないように支援しておられます。又、平成27年1月にISO9001認証を取得され更なるサービスの品質向上を目指しておられます。。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認のため、朝復唱している。又、事業所理念は、見やすい場所に明示し目を向けるようにしており、地域の中でその人らしい生活、安心した暮らしができるよう支援を行っている。	法人全体・施設全体・グループホームの理念があり、ホーム内の分かりやすい場所に掲示されています。毎日のミーティングでグループホームの理念を唱和すると共に、事業計画の振り返りの場面で、地域密着型サービスの意義や何の為に理念があるのか等を話し合い、日々の支援に繋げておられます。又、名札の裏には法人の理念を入れ全体会で復唱するようにしておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や買い物、農園活動等に出かけ、地域の人と出会い声をかけ合っている。保育園、学校(運動会・発表会等、地域行事にも声をかけてもらい参加、また、ボランティアとしても参加して交流が進んでいる。地域行事(夏祭り等)には、準備段階から参加させてもらっている。	日頃から散歩やグループホームで借りている畑での農園活動、買い物などの外出機会には、地域の人と出会い挨拶を交わしたり声を掛け合っておられます。保育園、学校との交流や地域の行事への参加、ボランティアの受け入れ、学生の体験学習など様々な年代、団体と交流を盛んに行っておられます。又、地域の一員として地域の文化祭に作品を出品したり、夏祭りなどの行事には職員が準備段階から参加するようにされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者、スタッフは、事業所での実践を地域の様々な研修会に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。実習生の受入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	検討事項・懸案事項についてやグループホームの現状の報告を行い、メンバーから質問、要望を受けながら、話し合い、サービス向上に取り組んでいる。	2か月に1回の開催、入居者・家族会代表、自治会長・福祉課職員・民生委員のほか、元役場職員も出席され、現状報告や意見交換が行われています。頂いたご意見は職員会で話し合い改善に役立てておられます。又、会議の内容はホームページ上に載せてあり閲覧可能です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情やサービスを折に触れ伝え、相談したり情報を連絡してもらったり、同時に町の職員と入居者と事業所との交流の行事を実施している。指導助言を受け連携を密にし協力関係を構築している。	運営推進会議や折に触れ事業所の現状を伝え、相談もされます。町からは最新の情報を頂かれたり、ケア会議に参加し、事例検討も行いながら、協力体制を構築されています。	現在運営推進会議に地域包括センター職員の出席はありません。町内の認知症の方の動向や待機者の情報等も包括職員と話し合いの場を持たれても良いと思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	強い帰宅願望の出現する場合、(家族に了解を取り)施錠する場合もあるが、身体拘束や言葉の拘束に対しての勉強会に参加し、さらに、併設施設と一緒に委員会活動を行い常にゼロを意識して取り組んでいる。	事業計画に身体拘束ゼロ宣言を表明しており、勉強会に出席したり、委員会での状況報告や検討会を行っておられます。センサーマットの使用は最低限とし、家族への説明と同意、必要時記録を残すようにしておられます。スピーチロックについても委員会活動で「言葉づかい」について話し合いを持たれるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロ宣言のもと、委員会活動を通し拘束・虐待のないケアを実践している。研修会に参加し、防止に努めている。又、新人への説明も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者に該当はないが、成年後見制度について研修会に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームの生活を理解して頂き、対応可能な範囲や、退去後の方向性など利用者、家人の疑問や不安を確認しながら、時間をとって丁寧に説明している。リスクや重度化、看取りについての対応も詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は、日々のの中で、また住民集会で意見や要望を聞き取り反映している。家族は、面会時や電話連絡時、ケアプラン見直し時など意見・要望を確認し、家族会交流会では家族同士が意見を言い合えるように配慮している。出された意見はミーティングで伝えケアに反映している。家族にアンケートも実施し、苦情では苦情解決委員会外部委員を設置し、公表し対応している。	各ユニットごとに住民集会が開かれ、意見や思いを伝えやすい機会となっています。また日々のやり取りの中でも聞き取りをされています。家族にも面会時や手紙・電話連絡の時やアンケートの実施、家族会交流会など様々な場で意見要望の確認をされています。頂いた意見や要望はミーティングで話し合いサービスに反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会、週1回管理会議で伝達把握をしている。ミーティングや勉強会、フロア会では意見交換を行っている。個人面談も実施し意見・要望を聞き取っている。	日々のミーティングや勉強会・フロア会で意見を出し合い、月1回施設の全体会・週1回管理会議でも意見交換をされています。又、管理者は個人面談も行っており意見や要望を聞くようにされています。管理者は法人の会議に出席し意見を伝えるようにされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により個別に意見聴取、フィードバックにてじっくり面談している。又、代表者が話を聞いてくれる環境作りをし、メンタル面についても相談しやすい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人、施設内、外部研修等希望を取りながら全員が参加できるようにしている。研修後は伝達講習を行っている。業務の中で都度助言・指導をおこなっており、個人目標を立て面談を行い評価している。また、法人のフレッシュ研修に1名参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会による研修会、相互研修、他のグループホームと連絡、連携を取り合い、グループホーム間のサービスの向上に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族との面談を行い、本人の要望や状態を把握するようにしている。また、不安や思いの理解し、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談時家族より要望等を聞き取り、どのような対応ができるか事前に話し合いをしている。また、これまでの苦労や経緯についてゆっくり聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・家族の思いや状況を聞き、面談記録に記入し、必要なサービスを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者との関わりの中からその人の持つ能力を見極め職員同士情報を共有してプランに反映。本人の出来る範囲でお願いし共に行える関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等情報を提供。思いを聞きながら、希望を聞き家族の意向を汲みながら、情報を共有して支援に生かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事の参加。今まで利用してきた商店への買い物・理美容店・喫茶店・初詣等馴染みの人や場所との関係を大切にし、継続できる支援をしている。	友人の面会がある方や、今まで利用していた商店や美容室、喫茶店、初詣に行く利用者や、お彼岸に家族と帰宅される利用者など、様々な形で馴染みの関係を継続されています。一人ひとりの生活習慣を大事にしながら継続出来るよう支援をされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に配慮しながら、テーブルの席、ソファの位置等入居者同士でコミュニケーションが取れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の老健入所後も入居者と一緒に面会に行き、行事の時は交流を持っている。併設の良さを出した交流を継続している。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族・知人などから面会や面談時に聞き取りを行い、本人の思いを汲み取りながら日々の関わりの中で声かけしている。	日々のやり取りや住民会議などで言葉や表情、態度から思いの把握に努められています。又、家族の面会時などにも情報を得るようにしておられます。	利用者の方の生きがい(生きる目標)に繋がるようなヒントを思いや意向の把握の中から見つけ出されると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取り、家族や面会に来られた方から情報を聞き取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解し場面、機会を提供し、できる事、解る事を把握して支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞きとり、専門職の意見も含めて課題となる事を確認し介護計画を作成。モニタリング、カンファレンスも行っている。	本人や家族との日々の関わりの中から思いや意見を聞き、職員と計画作成担当者、時には専門職や医師の意見も反映させながら計画を立案されています。月1回のカンファレンスを行い、評価は半年に1回行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何かあれば記録に書き込み、連絡ノート等を活用し情報を共有。カンファレンスを行いケアプランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設老健を活かした取り組みやショート利用ができるようにグループホームの多機能性を強化している。併設施設のイベントにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の運動会、夏祭り、工区の音楽会・運動会などに出かけている。広報誌も配布し情報を提供している。また、運営推進委員のメンバーとして民生委員との意見交換もしている。避難訓練時、地域消防団、消防の協力を受けている。図書館を活用したり、地域の方からお借りしている畑から芋や玉ねぎを作って交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の要望や思いを聞きながら受診の支援をしている。受診後には、状況を家族に報告。記録に残し職員間での情報共有をしている。	ご家族が受診に付き添う場合は連絡票を持参してもらうようにし、要望があれば同行支援もされています。受診の結果は記録に残し情報共有もされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。併設施設との医療連携加算等の協力体制があり、24時間相談することが可能、協力も得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医師と話をする機会を設け、グループホームで対応できる段階で退院できるよう協力している。入院中にも面会に行き病院関係者から情報交換を行い、良い関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに対する重度化対応・終末期ケア対応方針を定め、方針の共有に努めている。現状ターミナル対応は家族と連携を取りながら要望を聞き病院や老健と協力し対応している。急変時はすぐに対応してくれる協力病院がある。	看取りに対する重度化対応・終末期ケア対応方針があり家族に説明と同意を取っておられます。状態に変化があった場合は本人・家族の思いや意向を確認し、病院や老健と協力して対応しています。急変時には協力病院の対応があります。法人の看護師を講師に看取りケアの研修を行いケアの質の向上の努めておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急・救命訓練を全職員が受け対応できるようにしている。緊急時のマニュアルも作成し対応ができるようにしている。定期的に夜間訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、意識を高めている。地元地区との間に「災害時における協力に関する協定書」を結んでいる。地域の協力体制については、運営推進会議で呼び掛け協力を得ている。地区自営消防団長へは模擬対応要請での通報で協力を得ている。	年2回の避難訓練・消火訓練を実施されています。又、地区の自営消防団との間で「災害時における協力に関する協定書」を結んでおられます。地域の協力体制については運営推進会議でも呼び掛け協力が得られています。又、施設自体も町の避難場所の役割を担っています。先頃湯梨浜町で地震があったのをきっかけに再度災害対策について見直しをされる予定です。備蓄は施設全体で管理されています。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者の信頼関係ができており、親しみのある言葉かけをする時もあるが、日々の関わりの中で、入居者一人ひとりの尊厳を大切にしたい言葉かけ、対応の徹底を図っている。	プライバシー保護についての研修を行い、職員は理解して日々の対応にあたっておられます。職員は言葉掛けの内容や語調が利用者の尊厳を傷つけるものになっていないか、プライバシーを損ねていないか意識をもって関わっており、気になる声掛けがあった時は職員間でも注意しあえる風通しの良い人間関係があります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプランに沿った支援、希望を書きとめ実行しながら、複数の選択肢を提案して、本人が決める場面作りを行っている。(入浴、飲み物、食べ物、外出等)。住民集会も活用し意見を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して個別性のある支援を心掛けている。行事がある時は希望を伺い楽しみのある生活が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は希望の理美容店や近くのヘアサロンを利用している。個々の生活習慣に合わせた支援をし、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。着替えは選択肢ができるように配慮し本人が決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を献立に入れ、また、バイキング食も取り入れ個々に選んでもらう場面を作っている。ホームで収穫した野菜を食材に使用している。買い物、調理、片付けなど入居者と職員と一緒に、ゆったりとした雰囲気の中で職員と一緒に食事をしている。入居者の希望に沿って外食にも行っている。	利用者の希望を献立にしたりバイキング形式が取り入れられています。訪問時はバイキング食で職員が利用者一人ひとりにメニューの内容を説明したり、好みを聞いて選んでもらいお代わりをして楽しませていました。職員と一緒に食事を食べ、明るく家庭的な雰囲気の中でテーブルを囲んでおられました。又、ホームで収穫した野菜を食材に使用したり、買い物や下ごしらえ、片付けなど一緒に行っておられます。外食も希望に沿って行われ回転寿司などに行かれます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の配置があり、栄養バランス・栄養摂取量を把握している。食事や水分の摂取状況を職員は把握し情報を共有している。また、摂取状況に合わせ希望を聞き、お粥にしたり、副菜を柔らかくしたり、刻んだり支援を行っている。水分量を確保できない人については、嗜好に合わせた飲み物やゼリーなどを準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・口腔ケアの声かけは入居者の気持ちに配慮し、一人ひとりの力に応じた歯磨きの支援に努めている。必要に応じて歯科受診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの排泄ができるように、排泄パターンをつかみパットの検討もしながら個別に対応している。個々にあった声かけをし尊厳を守る排泄への取り組みを心掛けている。	排泄委員会で一人ひとりにあったパットを検討し使用しています。衛生用品業者の勉強会に参加するなど日々研鑽されています。個々に合った声かけを行い、尊厳を守る取り組みを心掛けておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう、牛乳や飲むヨーグルト等提供。ラジオ体操など適度に運動ができるようにし、個別に対応している。手作りおやつやきな粉を取り入れ工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湯船の温度等個々に聞きながら対応している。本人の意思を尊重し、最低週2回は入浴できるような声かけにも留意している。お湯の量なども一人ひとりに対応している。同性介助にも配慮している。	週2回(夏は週3回)は入浴出来るよう配慮されています。利用者の希望に沿って同性介助や介護度が高くなった方への2人介助など個々に応じた対応を心掛けておられます。併設の老健施設に特殊風呂があり必要なら対応も可能であるが現在は必要な利用者はおられません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し夜間安眠できるようにしている。安心してもらえるような声かけを心掛け、寝られない場合には本人の思いによりそった会話するなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・副作用などケース記録に添付し把握、薬準備、服薬チェックを二重にチェックし確実にこなしている。薬の変更時には職員間で周知し観察を徹底、看護職員や医療機関と連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の生活歴を把握しながら、農作業、水やり等役割をプランにあげ、支援に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	住民集会等で要望を聞きながら、外食、喫茶店等に出かけている。季節の行事では手作り弁当を作り利用者に季節感を味わってもらっている。家族会主催の日帰り旅行にも出かけている。	本人の要望を住民集会や日々のやり取りの中で聞き取り、外食や喫茶店に出かけておられます。又、食材の買い出しに職員と出掛ける方もあります。花見などの行事では手作り弁当をもって出かけ季節感を味わい楽しんでおられます。又、家族会主催の日帰り旅行もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向に添い、自己管理されている方は好物の購入や散髪、受診時に売店で買い物が出来るよう支援している。「はあとまつり」などのイベントでは希望にそい買い物が出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には電話をかけれるよう支援している。又、いつでも手紙が書けるように環境を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活しやすい家庭的な状態になるように、共同の空間の環境(室温、蛍光灯、匂いなど)に留意している。季節感を採り入れるために、作品作りも行っている。	照明や空調など適切に管理されています。共有空間にはソファが多く配置されており、訪問時も食後は自分のお気に入りの場所で思い思いにくつろいでおられました。季節感を意識した手作りの作品などが飾ってありました。風呂場などの薬品管理も適切にされていました。トイレなど暖簾がしてありプライバシーに配慮されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気軽に座れるソファコーナーで馴染みの利用者とくつろげるようにしている。リビングテーブルの自席でくつろぐ方もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や自分が大切にしてきた物を飾り居心地よく過ごしていただけるようにしている。ホームからも家族が届けてくれた写真や、手紙、外出時の写真や日々の中で作った作品を飾ったりとか工夫をしている。	自宅から使い慣れた物や大切な品などを持ちこまれたり、家族の写真や自分で作られた作品なども飾り、自分の部屋として居心地良くされていました。ベッドの配置など本人が居心地よく安全に過ごせるよう工夫した配置になっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置されており、台所も使いやすい高さになっており安全で自立した生活ができるようになっている。		